



知事が行く!  
突撃取材! Part2  
～三重のひと～

第13回

～楽しさと夢を創造～

# 三重県発！世界のおやつを めざして

## インタビュー詳細版

(聞き手)

三重県知事 鈴木 英敬

(お話いただいた方)

株式会社おやつカンパニー

代表取締役社長 まつだ よしあき  
松田 好旦さん

開発部 あおえ たかし  
青江 正さん



※松田社長は3月1日付で取締役会長に就任されました。

あおえ たかし 青江 正さん      まつだ よしあき 松田 好旦さん

知事：松田社長にお聞きします。おやつカンパニーという会社の名前ですが、私たちも子どもの頃から、おやつと聞くとワクワクした気持ちになります。松田社長は、おやつというものを、どのようにお考えですか。

松田：おやつは嗜好品しこうひんですね。私たちも子どもの頃から、おやつを食べることに楽しみがあったと思います。おやつを食べることで愉快になったり、ハッピーな気分になったり…。友だちと食べれば楽しくなる。そのような楽しいシーンや気分を創造するのが、おやつだと考えています。だから私たちは、楽しいおやつを作るメーカーとして、子どもたちやファミリーが喜ぶ場を、お菓子を通して作っていきたいと考えています。今後、そういったおやつ作りをどんどん進めていきたいと思っています。

知事：最近、家族や仲間とのつながりが希薄になっていると言われていた中で、おやつで楽しくコミュニケーションを深めてほしいですね。

松田：また、私たちは「食品の菓子化」をテーマに商品開発を進めています。ラーメンの菓子化がベビースターなんです。

知事：「食品の菓子化」ですか。なるほど。

松田：パンを菓子化したフレンチラスクもあります。次はお米の菓子化を考えています。



製造工場を見学

**知事：**菓子博では、松阪牛のステーキが菓子化されますからね。お米も楽しみですね。

では、青江さんにお聞きします。新しい商品を開発する際に、大切にしていることは何ですか。

**青江：**お客さまが食べている姿を想像して、食べていただいた時においしいとっていただける味を意識して作っています。一人ひとり、お客さまの嗜好や食べる状況は違いますが、どういうお客さまに食べていただくか、どういうシーンで食べていただくかを想像し、おいしいと感じていただけるように味づくりをしています。

**知事：**商品開発する際もターゲット設定が一番大事ということですね。では、三重県産の食材を使った商品の中で思い出に残っているエピソードはありますか。

**青江：**三重県には、松阪牛や伊勢えびなど全国的にも有名な食材がたくさんあります。それらの食材を菓子づくりに生かせるので助かります。ただ、素材のおいしさをいかに、お菓子に表現していくのが難しいところですね。配合などに苦労します。

**知事：**前回、広島で開催された菓子博では広島県産のレモンが食材として脚光を浴びました。三重県も菓子博でアオサなど、新たなスター食材が生まれることを期待しています。そういった意味で、県産食材でお菓子を開発していただくことは、本当にありがたいことです。

それでは最後に、お二人のこれからの夢をお聞かせください。

**青江：**三重県から生まれたベビースターを、世界の人たちに食べていただき、世界のおやつに育てていきたいと考えています。

**知事：**世界のおやつですか。素晴らしいですね。

**松田：**ベビースターは約60年の歴史と文化があります。そのお菓子文化を日本の方々はもちろん、世界の人たちにも楽しんでいただけるよう、どんどん発信していきたいと考えています。30数年前から海外展開を進めており、夏頃には台湾工場も完成します。今後もさらに強化していきたいと思っています。



菓子博に向けて新たに開発した「ベビースターラーメン 松阪牛ステーキ味」を試食



新商品の企画や試作に取り組む青江さん（右）



ベビースターラーメンの工場見学（久居工場）には年間約2万人の子どもたちが訪れるそうです。

知事：日本のお菓子文化を、おやつカンパニーから世界に広めていこうということですね。今日は、ありがとうございました。

松田・青江：ありがとうございました。



※インタビューの内容は、読みやすさの観点から一部要約等を行っています。  
※記載内容、写真の無断転載を禁じます。  
※内容に関するご意見・お問い合わせは、三重県戦略企画部広聴広報課まで

〒514-8570三重県津市広明町13  
☎ 059・224・2788 FAX 059・224・2032  
E-mail koho@pref.mie.jp